AMCoR
Asahikawa Medical College Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

漢方診療 (1996.04) 15巻2号:37.

甲状腺機能低下症に起因する浮腫に対する漢方治療の1例

玉川進、西田泰周、小川秀道

トライアル・ノート

甲状腺機能低下症に起因する浮腫に対する漢方治療の1例

玉川　進・西田泰周・小川秀道　旭川医科大学麻酔・蘇生学教室

Ⅰ．緒　言

甲状腺機能低下症は30～60歳の女性に多く，症状が多彩のためペインクリニックを訪れる症例がある。われわれは腰背部痛と顔面浮腫を主訴に受診した患者に対し，漢方薬によって症状を消退せしめた。その後甲状腺機能低下症と判明した本症例について報告する。

Ⅱ．症　例

35歳女性。身長155cm，体重50kg。1年前より起床時に開眼しにくい日のあることを自覚した。最近1カ月は顔が腫れぼったく，腕時計や靴がきつくなることが多くなった。その頃から腰背部痛もあり，知人の勧めにて当科外来を受診した。浮腫のほかに，朝起きるのがつらいこと，寒がりであること，少しのことで疲れやすいことなどを訴えた。皮膚は白く顔面と上肢は浮腫状であった。触診にて甲状腺腫は認められなかった。血圧と脈拍は正常範囲であった。血液検査では軽度の貧血が認められた。患者は浮腫に対する漢方治療を希望したため，葛根湯（カッコントウ）と五苓散（ゴレイサン）を各々7.5g分3で処方し〔ツムラ漢方製剤エキス顆粒（医療用）を使用〕，浮腫が消退するまでは定期的に服用すること，浮腫が軽減した後は一包ずつ頓用とすることを指導した。1週間後の診察では，浮腫と腰背部痛は消退し，朝に眼瞼が腫れているときのみ服用していた。症状から甲状腺疾患を疑い内科に紹介したところ，T3 0.12ng/ml（正常0.85以上），T4 0.62μg/ml（正常5.8以上），TSH337.5μU/ml（正常4.0以下）であり，甲状腺機能低下症と診断された。現在内科にて加療中である。

Ⅲ．考　察

甲状腺機能低下症はさまざまな症状をきたすため，時に診断に難渋する。浮腫と腰背部痛を主訴に来院した患者であったが，注意深い問診により甲状腺機能低下症と診断できた症例である。

五苓散は茯苓，猪苓，沢瀉，蒼朮，桂皮という5種類の，葛根湯は葛根，桂皮，麻黄，芍薬，甘草，生姜，大棗という7種類の生薬からなっている。五苓散に含まれる生薬のほとんどに利尿作用があり，組織や消化管の余分な水を血中に引き込むことによって利尿作用を起こす。五苓散の利尿作用は過剰な水分に対して起こり，脱水状態では利尿作用は示さない。これは脱水状態であっても利尿をもたらすフロセミドに対して有利な点である。また，葛根湯は麻黄が直接の利尿作用を持つほか，葛根，桂皮には循環改善作用が認められ，これによって利尿効果を補助する[1]。以上により五苓散と葛根湯の併用は漢方薬中随一の利尿剤とされるものではないかと思われる[2]。今回の症例は対症療法であり，随証治療とはなっていない。葛根湯は実証に投与する薬剤であり，五苓散も中間証程度までである。虚証と判断できる本症例には長期連用は避けるべきと考えた。頓用であっても効果は大きく，浮腫を著明に軽減することができた。

Ⅳ．結　語

腰背部痛と顔面浮腫を主訴に受診し，甲状腺機能低下症と判明した症例を経験したので報告した。浮腫軽減には葛根湯と五苓散の投与が有効であった。

本稿の要旨は第10回北海道ペインクリニック学会（1994年8月，札幌）で発表した。

文　献

1）神戸中医学研究会：中医処方解説，伊藤　良，山本　巌監修，医歯薬出版，東京，1982，p164～167
2）下田　憲：臨床薬理の立場からの処方解説，（株）ツムラ，東京，1990，p72～73